

キテ居ルコトデアラウ。

一郎、生前知遇ヲ得テ公私共御友誼ニ預カシメ世間、皆棟ニ対シテハ報ズル  
コトモナク去ワタ事ヲ御託甲上ゲマス。軍ニマシテハ指導ニ訓育ニ特別ナル  
御高虎ヲ蒙リテ赤松部隊長殿、比日本中隊長殿ニ琛甚、謝意ヲ表スル共  
ニ、部下トシテ能ク助カセラレタ諸兵、各位ニ對シテハ、深ク感謝ヲ捧リマス。特ニ皆本  
中隊長殿、親身モ及バヌ御厚志ニ對シテハ遺族トシテ志レル事出来又、有難キ次  
弟デアリマシテ地下、靈モ嚙感謝致シテ居ルコトデアリマセウ、更ニ亦重任ヲ果得ズ  
シテ南西、海ニ共ニ散華セラレタ大町船団長外三名、御英靈ニ對シテハ何トモ申  
訳ナク深謝スル次第デアリマス。

殉国日記ハ彼ガ出征カラ戦死ニ至ル迄、家庭ト通信ヤラ感想ヤラテ無造作ニ書  
綴ラタモケス。勿論他人ニ示スベキ程、モノデナイゲ傷、ナイ文筆不得手、私ガ実  
感ヲ其ノ儘ニ書イタ不文ノモケス。靈前ニ供ヘテ往時ヲ偲ブト共ニ慰霊、一助ニ  
ナラト考ヘ敢ヘテ冊子トシテ次第デアリマス。  
終リニ赤松部隊長殿、慶良間戦、実状ト吉田先生ヲ、御追悼ヲ共ニ巻頭ニ  
飾ルコトヲ得マシタ事ヲ厚ク御礼申上マス。

昭和二十二年三月二十一日

中島幸太郎

### 殉国日記

中島一郎、大正十一年七月二十九日、生誕デアラウ。金子尋常高等小学校ヲ卒業、  
実業学校ニ入学。在校五ヶ年、昭和十五年青い優等ヲ以テ卒業シタ。在校中剣武道ヲ能クシ  
師範、吉田政三氏ヲ指導ヲ受ケ、初段、免許ヲ得、其ハシタ。卒業、后ハ家庭ニテテ専ラ農  
業ニ従事シタ。金子村青年団、根岸支部長等ヲ勤メテ居タ。

昭和十七年六月六日、豊岡公會堂ニ於テ徵兵検査ヲ受ケテ甲種合格ヲ得、兵種ハ工兵デアラウ。  
昭和十八年十月八日、大東亞戦争、徵發ニ依リ根岸ニ於テ召集者七名、全部入隊ニ事ナリ。  
今年者トシテ、中島純之助君、今茂君、永村三良君、谷路文雄君、中島和助君、永村誠一君、  
昭和十八年四月十日、東京都王子区赤羽袋町、東部第十五部隊ニ入隊シ、杉浦和勝、地区司令  
官ヨリ指示ヲ受ケタ。四月九日、永村三良君ト共ニ常例ニヨリ、稲荷神社々前ニ大宇民一同ニ  
集ルニ区長代理神カカ之助君ヨリ送別、辞アリ、一郎入隊者ヲ代表シテ答辭、更ニ言ハレ、  
君ヨリ特ニ壯途ヲ祝スル、激勵辭アリテ、萬歳ニ唱、上金子駅ヲ六時四十分出發シ、  
発ニ際シ村民多数ノ見送リヲ受ケ、駅頭ニ於テ在郷分會長神山源藏氏、送別辭  
リ、一郎謝辭ヲ述ヘテ勇躍金子駅ヨリ出發シタ。  
東部第十五部隊ハ入隊ハ十日午前八時、金子市相当地間アルニヨリ、王子市青藤原八代方  
ニ少憩スルコトシタ。附添トシテ、石川金次郎君、島田修一郎君等、テアツカガ青藤原方、石川

菅原郎トニテ東京市内一巡上夕刻四國町ニ戻リ扇町屋工場ニ迫リ翌四月十三日  
朝武蔵野線初発ニテ石川金次郎ト同行東部ガ五部隊ニ無事入隊トテ東部ガ  
部隊ニ在事一週間ニテ内密ノ程ニ宮城県石巻市東部ガ九部隊ニ移駐トテ途上ヨリ  
石巻方面ニ転送セル旨秘報ヲ受領シタリ石巻ニハラタ駐在シテ南方ニ行ク様ニナルカ  
知レト云フハカテアツタ近所ヘモ挨拶状ヲ當分出セタ旨附記シテアツタ  
石巻ノ東部ガ九部隊ハ大東亞戦争ノ重大性ニミテ設テ置カレタ新部隊ニ陸軍廠舎ヲ  
ツテ東部日本唯一船舶工兵部隊デアツタ北三川ヤ仙台灣等ヲ訓練所トシタモガ地形  
的ニ最も良好ノ位置デアル事ヲ聞イタ

二六四ノ九 附ハカテアツタ石巻九部隊入隊ノ一信ヲ送テ来タ隊名ハ宮城県石巻市  
東部第九部隊口隊中務班デアツタ「春ハ三ヒノ寒サホク去ラズ毎朝降霜北ニ  
ニ冷タサヲ感シト云フモハデアツタ  
三 部隊長ハ高木清陸軍大佐デアツタ元所次整備学校ニモ居リタ事ナル人  
四 隊長ハ佐々木道典中尉デアツタ中隊付ノ少尉デアツタ上吉十郎少尉カレ四月三日  
ハ井上少尉ハ飯能元町長井上太平ハ兄息子デ越后久テアルガ太平代ハ長セラ  
シテ居ル關係カラ大部分ヲ飯能町ニ送リ金子方面モ能ク知り「種々御世話ニテ居ル  
事尚中務班長ニモ特別テ御厚意ヲ預キ居ル旨附記シテアツタ

二五五 間野米吉君ガ石巻海軍航空班ニ居ルト事ヲ余暇ガ出来タ一度面會  
シタイトノ事ヲ報ジテ来タ間野米吉君ハ間野けんニ異ナル近所ハ挨拶状ヲ先  
日漸ク発信シタ旨附記シテアツタ  
間野けんニモ石巻航空班ニ米吉君ガ居ルト云フ通知ヲ受取テ是非面會ト行キ  
タイトノ事デアツタ米吉君ハ二月頃一寸帰省シテ僕ノ所ヘ一度口業訪シテ居タ帰  
隊スル時モ偶然東京迄同ジ電車ニ乗合セタ事モアリ今度何レ南方ニ行ク  
デアイカト云フ事デアイケハ是非一度面會シテ置マタイ希望デアツタ  
昭和十八年五月八日中島忠八君ノ希望モアワテ三人ニテ野発午後九時五分テ出  
発シタ東北本線テ朝六時頃仙台ニ着キ直ニ電車ニ乗換ヘ石巻ニ向ワタ石巻市ニ  
着イタハ九時頃デアツタ海岸町ノ余リ賑ヤカテ町並デアツタ右ノ方ニ小山ガ連リ  
居リ左ノ方ハ北止川ノ隔テ丘陵ニテテ居ル狭イ所ト田圃ガ様マレテ居ル所  
デアツタ間野米吉君ノ厄介ニテイル家ハ五町一ニ花屋デ浅野文太郎代ト云フ  
家デアツタ造花ヤ草花ガ商賣ヲシテ直グ家ハ判明シタ米吉君ガ所ニ米吉君  
ハ既ニ三日前ニ葉縣本更津ノ方ニ移轉シタト事デアツタおけいハハ非常ニ  
落膽シタガ何トモ止ムヲ得ナカワタ米吉君ノ寫眞ヲ日常ノ事ナトテ妻女カラ卑  
イテ浅野カラ辞シタゲアルソレカラ井上吉十郎少尉ヲ訪ネバク仲町ノ菓子舗松

泉堂支店(店主泉正之助氏)を訪り、松泉堂ハ石巻一流、菓子舗ヲ其支店ニシテ  
付町ハ仲々良イ通リテ石巻天最モ賑カナ所デアリタ。店構モ立派デアリガ時節、板店  
幕ガ下リテ休業シテイタ。来意ヨリ塩ゲルト井上少尉ハ在定セラレテ直々ニ面會セリタ  
飯能町ニ居ラレテ、ダウトサンニテ金子村方面ニモ度々通ワタト事ヲ話ハ親密ニシ  
経ニ話ル事ガ来タ。一郎ニ面會方ハ部隊ニ電話ヲ置アラトノ事ヲ非常ナ好  
意ヲ示シタ。井上少尉辞シテ一ト先九〇部隊ニ向ツタ。元陸軍ノ敵舎デアワタモ、改造  
修理シテ兵舎ニシタモ、テ部隊トシテハ粗末ナモ、デアワタ石巻、町カラ七八町、道路モ最近  
出来タ。許リテ道ニ砂利ガ敷イテ、通行モ樂デナリタ。前面ハ田南デ直グ裏ガ北上  
川ニテワテ居ル如何ニモ田舎部隊ト云ワテ感ジノスル所デアワタ。十二時一丁前ニ衛  
門ニ着イタ。面會所ハ門ヲ入ワテ直グ右ニアル。粗末ナ建物デアワタ。食時間ナ  
テ一時間計リ待テ、一郎ハヤワテ来タ。初年兵ノ然モ入隊一ヶ月ナデ、田舎カラ来タ  
ボヤクノ新兵ト云ワテ感デアワタ。入隊以來健康デ此頃ハ北止川ヲモーターホート  
川ヲ下シ海ニ出テハ訓練ヲ行ワテ居ルトノ話デアワタ。船舶兵ハ若イ人達ニハ最モ痛  
快ガ勤務デアリ等話シタ。私達四人ハ皆ワテ来タ。辨當ラ食ベテ、一時間ヲ越シテ  
面會ノ前デ記念ノ撮影ヲスルコトニシタ。初夏ノ晴カキ陽ガ燦々トシテ降リ注イテ、  
木ノラタナスモ亦眩ユイ程鮮カキタ。別々ニ字裏面ハ日光直シテ、二箇軍四人

ヲワテ、飯能町ニテ面會所トシテ、兵カ来テ、井上少尉ハ電話テ一郎ニ松泉堂ニテ外  
出ル程ニ、少尉ハ御厚意ヲ深ク感謝シタ。又ハ適立ヲ井上少尉ハ再ニ松泉堂ニ訪  
レタ。井上ハ非常ニ好意ヲ以テ迎ヘテ、今晚ノ宿舎ノ事ヲ御心配下サレタ。「現ニハ  
其ノ宿舎テ尚懇談シタ」とノ話デアワタ。井上代ノ厚意ヲ深謝シテ、松泉堂ヲ辞  
シ海岸通りノ船着場、但マ一巡シタ。一郎カラ井上少尉ハ、應召ノ兵エヲ訓練ハ、部隊  
ヲ編成シテ南方基地ニ送リ届ル役ヲ任テ居ルトノ話ヲ聞ク。午後三時、船着場、附近テ  
一郎ト別シテ、一郎ハ隊ニ吾等ハ、取方急イタ。時間ハ少ナイガ、松島ヲ今日ノ内ニ見テ  
塩釜ニ泊明日金華山ニ行ワウト云フ。計画ヲシタノデアワタ。  
電車ヲ松島駅ニ下リ、觀光ホテルカラ海岸通りノ風光ヲ賞ム。瑞巖寺ニ参  
詣シテ遊覧船ヨリ塩釜行キ、午後三時トナル。既ニ時間ハ過シテ居タ。海岸邊ガ小島  
ヲ彼方此方ト散策シテ自然ノ美ヲ賞ム。夕景ノ松島モ亦一タ。眺デアワタ。松島  
鬼物ハ六時頃終リ、塩釜ニワイクハ、金ウタ刻デアワタ。鬼アル旅舎ニ泊リ、良イ宿  
ニナイガ、塩釜ニハ良イ旅館ハナイ。翌五月十日早朝、塩釜神社ニ参詣シタ。上リハ  
斜道ヲ参詣シタ。塩釜神社ハ既ニ三四参詣シタ。アタリノ産婦神トテ、関東ニテ  
聞エタ名刹デアリ。境内ノ眺望ハ、実ニ良カキ。帰リハ男坂正面ノ石段ヲ下リテ、帰

ワタ塩釜カラ金華山行き、船が最近出ナイ、止ナリ石巻カラ行クコトニシタ。昨日  
兎ク船着島カラ登船シテ船ハ小型ノ汚イ遊覧船デアワタ。北上川ヨ下テ太平洋ニ出  
青イ海水ト濁ワタ北上川ノ水トガ境ヲシテ海中ニ押出シテ居ルヲ稀ラシイモノノ様  
ニ見タ。牡鹿半島ヲ一廻リシテ太平洋上出タ。金華山ハ洋中ノ一島トナル一寸ニ  
時間法ハカ、ワタカト思ヒタ島ハ古木茂ク難木林ニ覆ヒテ居リ栗ヤ松杉ノ木余ノ  
モノガ自然ノ儼ニ残サレテ居タ。林中ニ鹿一頭見出シテ居テヨク人ニ馴レテ居タ。大  
和ノ春日神社ニ行ク事ガ思出サレタ。七ノ町止ワタ所ニ金山神社ガアル。金箔ヤ朱  
塗リノ五水ノ神社デアワタ。社前ニ額イテ「一郎」武運長久等祈願シテ午後一  
時金華山ヲ辞シテ帰路ノ海上ハ浪ガ荒レテ居タ。西南風ガ可成強ク吹イテ居タ  
一丈モ海底ニ船ハ沈ンダリ四五尺モ浪ニ押ビゲラレタリ。船ノ動揺デおけいんモ忠々  
ス元気が悪カワタ。船員カラ敵ノ潜水艦ガ金華山沖ニ出現シテ話ヲ聞カセタ。帝  
國海軍ラシイ大型ノ軍艦ガ沖ニ航行シテオホク見タ。仙台灣ニ遠クテ夜ハ非常  
ニ静カニタ。午後三時頃石巻ノ船着所ニ着イタ。松島ト金華山見物ヲ終ヘテ  
帰途ハ省線小牛田カラ帰ル事ニシタ。おけいんと忠々さんニ仙台ニ泊シ觀光ヲ  
奨メタ。結局帰ルコトニシタ。仙台カラ汽車ハ夜行ニテ十日朝列車ハ上野駅  
ニ着イテイタ

一郎部隊生活ハ四五六ト第一期間ハ無事ニ終ラ第ニ期ニ入リ幹部候補生ニシカ  
ドウカト云フコトデアワタ候補生ノ志願者ハ一般兵士ノ勤務シテ後更ニ自修スルヲ  
仲々忙ガシク苦痛ガアルヲシ、一郎モ候補生タルベク勉強シテ居タ  
八ハニ五入隊ハ最初ノ外泊ガ出タ。然モ四泊五日ト云フ外泊デアワタ。二十六日八王子ノ  
エビヤカラ一郎無事着イタト云テ電話ガアワテ「エビヤ」テ勉強スルカラ家ノ方ニハ  
帰ラヌカモ知シヌト云テ話デアワタ。家ノ方デモ待他ビテ居ルデ「早ク家ノ方ニ来」ト云テ  
電話ヲ町屋工場カラ再度カケタ。此ノ督促デニ十七日帰省シタ。家中ハ賑ワタ町屋工  
場ニモ挨拶ニ行ワリ近所ニモ顔出シタ。二十七日八泊シテ二十八日再ビ八王子カラ帰隊ス  
ル事ニシタ。上野ヲ夜行デ立ワタ。其際解母サンニ深夜上野駅迄送リテ貰ワタ事ヲ  
隊后知ラシテ来タ。叔母サンノ厚意ニ深ク感謝シテ居タ  
八ハ、ニ、コ、月、九。部隊ノ創立記念日デテ前中ハ各中隊ノ対抗競技デ口隊ガ優勝  
シ清酒五升ヲ貰ワタ。午後八石巻ノ福井蛇田ノ方カラ素人慰向演劇ガアワテ賑ヤカ  
デアワタト創立記念日ノ状況ヲ知ラシテ来タ。尚鈴木八右衛門中隊長ニハ平素特別  
ノ御厄介ニシテ居ル旨附記シテアワタ。住所ハ

石巻市北鯉山町五ノ三。(中隊長)鈴木八右衛門代  
石巻市湊本町提長吉塚方 佐々木道典代

一六〇、四附八がキハ石巻を救へんとす。降雨積雪甚しき中、幹候三イキハ十月日祭  
表テリ金志願者大員中十名採用せらる。四三回テ合格シタ尚全日付ヲ以テ一等兵ニナラ  
旨報知シ来タ

一六一、三四角封筒ヨリ通知ガアタ。現在幹部候補生ノ人としてイ隊に編入され猛烈なる演習  
を受けて居ます。甲乙決定も十月日に試験が実施されます。が大に張りつやる考へてす。中  
略「新又の丸公君が目を患くし帰定して居るが嘗て仙台のオハ陸軍病院に入院して居り  
現從鬼除にはなご居りません。退院療養になご居る旨です。小谷田の高橋君も入隊し  
下士官候補者班で張切を居るゐる。数日前剣道ヲ隊でやったが教員振りで休も  
自由になごす。今右銃剣道や剣道も精進するつもりです。等々此頃ハ幹部生ノ  
人トシテ大イム張切ワテ勉強して居る事ヲ通知して来タ。家ヲモ其ノ合格ヲ祈念す所  
一六二、通信ハ「幹部生」ノ次試験は十月五日迄に舟艇部隊密集教訓の  
兵指揮で受験した受験者は合計七名で、四名は合格するものと思はれるか合格者  
合格は別として余カも傾投して當つて見ました。此の結果は十月二十日ノ結果表  
ノ附キのテアタ。又十月四日には舟艇現況「死にぞなほなほ」なごす。十月十日の東北の  
暴風雨の爲に流失した木材の集積、爲出動して北上河口に於て故障も起り、漂流し其の  
多量に漂流した木材を回収し、明の夜に回収した。漂流した木材は、回収した。

廿二連發神寄世河川の燈台附近下流の爲散々に海水を吞まされ且溺者現の爲甚し  
まれば救命胴衣のお蔭で浮上りゆより遙か遠くに漂流され部隊の舟艇に漸く救助  
せられた。船舶兵としては良い経験であり、如何なる大濤にも舟艇は沈没しない確信もつ  
き將來貴重なる良い経験を得たと云フキタ。入隊後最初ノ危機ハ逢過シタゲ  
アキが華ナキヲ得テ事ハ至幸テアタ

一六三、二八日附中隊長 鈴木八右衛門ハ十月二日幹部候補生試験実施、結果候  
補生ハ合格シタル旨通報シ接シタ。却説即子息今田某ハ度幹部候補生合格御祝  
申上候。ハに本人の熱心なる努力の賜であり銃匠家庭習々様の後援の賜であり中隊長と  
しと之に致したる喜びは之無候。甲乙決定期近に迫り居る際一段と教育に専念する様  
御打添被下度。トノ事テアタ。中隊長カラノ御通知シヨテ一即幹部候補合格事ヲ家  
内中大ニ喜ビタヘイカガ。本人の喜ビモ亦無カレテテ直々ニ祝辞ヲ送ッテヤタ  
一六四、二五日附一即カラテテ、幹部候補生イテ詳報して来タ。幹部候補生の甲乙区分  
ル合格者の発表は十月三日に於て此中四名採用中ニ番々合格したオハ一隊（イ隊）  
に転属になりやハ中隊教官下に集合教育を受けた關係から他の隊の者は若干不利  
の点もあつたが然し私ハ大に張切つてやつたつもりです。三番の永山君も埼玉の久松町出身で  
戦友中最親友の一人で、四名中三番と三、四葉一人東京一人の割合です。幹部甲乙合格然

モニ番デアラウ事ハ今迄ニイハレトイ便チアッタ此ノ試験ガハ軍人トシテ將來運命  
ヲ決スル最大ノ機會デアリ最モ重視スベキモノガアラハ何トシテモ此  
ノ通知デアラウ未ダ早ク甲種合格者ノ入校ハ来年百に存スルカモ知れぬト書添ヘテアリ  
尚奥村伊三郎若羅針機ト測程測深具用法又説明(文海堂出版部發行)一  
気象並ニ氣象ニ関スル参考書(一)教練教科書(術科部)職員用等ノ書籍必要  
件ノ付キ送付方要切アリ身向的教育ヲ入ラダガ推知セシタ  
八二二九ノ百二十九日より青森地方に出張演習ニ出かけて五日に石巻に帰隊した其間  
青森縣の各地で何れも脚馳走に存す外泊に行き時々の気持であつたト報じ居ル  
八二二八ノ手紙ニ石巻でも十日角帽部隊が現山入隊して相当親類して居た入隊し  
たものの西で東京部西野藤野福生出身の<sup>君</sup>君は島田辰三郎君と青梅農林校の  
同級生で更に三草の高等農林校も共に入学し彼の下宿は辰三郎君が跡に入つたと云ふ  
と種々の近況を聞かしたト更ニ<sup>君</sup>君ハ十日十日付ヲ以テ上等兵ニテ事ヲ書添テ多  
入二二七ニテコナル等のお正月は三日日から百四日迄帰省の上新春を迎へる事にならう  
と云ふ花ノ短信デアラウ

昔も戦勝ノタニ忍従ニ事ヲ覺悟シタガハ然レ國內的軍械ノ生産食糧増産等  
容易ナザル問題が積存シテ居タガハ

今日ハ一郎帰省スルカト家中心待ニ待テ居タ午前十時頃初朝食ヲ済マシタ時元氣  
良く這入テ来タ家中ハ此ノ賑ハカデワラヤ百ニ伍長ヲワタ云ッテ肩書士金筋が一  
ハコキタ家ノ掃除モシクニ炬燵中デ在隊護ヲ出張演習舟沈没事件幹候合格  
今度同シ幹候ニ合格シタ東京ノ竜田敦馬君ト遇然電車ニ全乗ヲ稀ラニ事ヲ  
アワ止野駢ヲ滝田君ト別々一郎ハ今度帰省ハ四泊五日デアラテ四夕刻歸隊スル事ヲ  
近所等挨拶ト廻リ伍長吉々事ハ進級ガ早カラト近所デモ噂ヲ居タ様デアッタ  
元二二二附ノ手紙ニ元ト一月五日歸隊直チニ準備シテ百六日釧川金華山女川方面ニ  
泊リ機動演習ニ出タ事ヲ知ラセテ来タ石巻も百六日寒サ烈ク北上川も三程似ハ堅氷  
ニ覆ヒテ居ル中ヲ十二月一日臨時徵集ノ總隊兵舟艇演習ニ助手ヲ勤メテ堅氷ヲ割リ  
ク進歩スル中ヲ身ヲ切レ初寒凡中氷中ニ飛ビ込ム初年兵ヲ見テ「いぢらこてならぬ  
ト云フ実感ヲ伝ヘテ来カ尙宇呂ノ方ニ入校願屬ハ其内実現スルカラ其折電報ニ  
テ通知シ武蔵野線向行賣場附近ニニ食介船場ノ學舎賣場ノ事ヲ書添テ  
予備士官學校入校ノ間近ニアル事ヲ報ジテ来タ

石巻ノアハ字真館ニ住長ニテマア字真館カラ直送スル旨令館ノ領收書ガ全封シテマア夕撮影ハ十九年有九月ノ

一九一八午年八月十五日ハ突然帰省方今度帰省ハ三期ニテ居カマア石巻出立自宅ニ寄リ考  
品ノ幹部候補生隊ニ隊スハクハ日早朝甲種幹部候補生〆テ石巻出立自宅ニ寄リ考  
デハナカワダガ上野駅ニテ時開カアル故急帰省方電報ヲ通知ガマア夕撮影ノリト知マア次弟

一九一八午年八月十五日東京駅集合トテ居マア夕撮影十九日午前九時早急ニ乗車シテ  
一九一八午年八月十五日石巻駅構内カラ通信ハ「十九日午後一時三十分東京発特急富士」マア西下マア  
ニ東京駅ニ留意日以下ノ戦友急行巻ヲ求めて待つニ居マア石巻着ハ二十日朝五時六  
分直ちに宇品ニ向カ途中カラ通信ヲ送マア来た

一九一八午年九月一日早朝石巻より市電にて宇品ニ向カテ七部隊には七時半頃無  
事着入隊シテ旨報シテマア、起床ハ六時三十分給与ハ宇品ノオカヨイ、朝夕ハ寒サマ  
感ズルガ日中ハ温暖ナル。隊名ハ西部第七部隊幹部候補隊吉田隊デマア夕撮影。尚今日附  
デ吉田隊長吉田勝彦氏及幹部候補隊長古本利三郎兩代カラ家族ニ對スル挨拶  
状ガ届ケラシメ其ノ要旨ハ古本隊長ヨリハ「幹部候補生ノ教育ノ目的ハ將來國軍船舶部隊  
ノ模範教育ノ中ニ在リキ將校ノ性徳徳操ヲ涵養シ且又戰時初級尉官タルキ必要  
ナル事職技能ヲ具備セルルモ之ノ有價スルコトアリ現下決戦軍局下就中航船部隊

教育必要且焦眉ノ急務ナル事其成果ハ皇國ノ存立ニ重大ナル影響ヲ及スルベキ

旨カ説セラシマア夕撮影 吉田中隊長ヨリモハ美トシテ生徒ト結上ニ関スルモノデマア夕撮影

要旨ハ左ノ六項デマア夕撮影

一隊ト家庭トハ密接ナル連絡ヲ保ク面會等際ハ隊ノ幹部トモ面接セラル事

二候補生ニ對スル艱難ハ又兄ノ論家郷ノ先輩ノ恩師市町村長軍人分會長ヨリ

奨勵セラル事

三十便錢ハ送付セザル事

四止ラ得ル事情ヲ休暇外出ヲ申請セラル時市町村長證明ヲ得所属隊長死後遺族

ニ候補生面會ハ休外行ガル旨トス面會際ハ飲食物ハ絶対持参セザル事

五軍装品調達ノ爲送金スル場合ハ振替口座広島一五五一番西部第七部隊幹部候補隊

吉田隊) 其他ノ注意事項ガ指示セラレテマア夕撮影

一九一八午年九月一日元節休日宇品ニ於テハ幹部候補生活ノ概略ヲ報告シテ采々(或曰狀況)

午前四時三分起床ニ比浴(宇品市内)マア靴足作業衣袴下ナリトテトテス履履ハ

(並通ハ六時三十分) 兵呼位幹部候補生訓練場ニテ右兵舎ノ掃除ヲ便所モ食糞モ

候補生ガ終ニ掃除スル朝食ハ七時三分始メ茶は味噌汁ニ次ぎテ午前午後ノ訓練

線ガ終了シ又浴ハ毎日五時より五時三分始メトテトテト一番に浴に入る浴は日常樂トシ

行果ののである。夕食は七時三十分、八時三十分より自習室で自習。其の日の教練や宿題も  
自習室で自習は三十分迄行はし右消灯就寢スル

本島は中国一都會にけに相当な故、市電も新と見持が良、比治村極の名所、新聞ラ  
ゲオも面白いがマニヤル群島に米軍が上陸を来た事、上層から聞きた。吾々艦船  
兵の重責なるも今更の如く痛感と居る。本島は非常に気持が良、宇島の波止場はいつも  
多忙也。此の手段、射筒兵は差出人が本島市宇島町海岸通り山本岩吉トシテアタ

一部ノ宇島生活ハ幹部候補生トシテノ教育ニアタ、将来皇軍ノ將校トシテノ技能徳操ヲ  
涵養スル所デアルトハ古元部隊長ヨリ挨拶ノ通リテアル兵舎ハ元大和人絹株式会社ノ工  
場が其ノ傍に用セラレタ様デアル、ノートヤ印鑑ヤ半改便箋等教育上必要ナ品ヲ届ケテマツタ

一九四七、機動演習ヲ受領シ、宮島ニ送附シタ事ヲ報ジテ来又、宮島各指ハ四月初ラシテ桜  
花爛熳タル景ヲ海軍ノ大島房ヤ東陸軍ノ社殿廻樓等、繪ノ様ヲ美觀デ松島ヨリ一層、  
景色ヲ感ジタトハカマニ後ル通信ハ簡便デアラタ

一九四ニ、本島市宇島町通信通山本岩吉カトシテノ新着ハ本島教育政ヨリ外出ノ状況  
等詳報シテ来又、宇島生活ニ三月月テ終リ直日四回ノ空遊ニ移転ノ旨報ジテアタ

「拜啓 其の旨仰ニ承知いたしました。が、此の旨を先ず存じます。 〆〆〆子も國及々本校に入學し、誠ニ學業國業兼業を本校に入つた由何よりです。 〆〆〆ちらも至つて

元元艦隊であり船舶の買入と運務に苦心努力致して居ります

本日は本島の最初であり且最後である外出は、戦後である水越居の嚴父(八三子市安町水越  
清次)が面會に来るといふ、同様に委託いたして發送いたしました。こちらに住所もこの前に班長  
に委託した住所であります

本島も春宵は既に過ぎ、名所の比治山の桜も散々してしましました。去る四月の初旬日本軍第一  
宮島に機動演習で参拜に参りました。さすが三景だけあつて景色は良し、桜花爛熳で  
何とも云へない風景でありました。宮島の極待りも決戦下非常に時局色濃厚にして皆腰

兼当にて桜花を樂んでゐるに過ぎぬ様です。吾々も飯盒の冷飯で春日和の桜花の下で群  
がる鹿と共に内瀬の風景も賞しつ、三時間ばかりをすしし出発致しました。宮島も食物は  
更に名物のカキのみが店に並んで顧客を求めて居ります。赤名物として、シヤモジ、金、

ハシ、杖等子供の頑具のみが賑かに店頭にならべてあります。松島の如く海之美は左程もは  
ないすが、山の美しさ、赤い鳥居、拝殿が海中に立つ美しさは一通りではありません  
演習中毎に激しくなりつてあります。これも昔やつたことでそれ程問題ではありません

瀬戸内海も風波共に静かで鏡の如いです。附近ニ呉港あり江田島の方へも機動演習行  
きましたので巡洋艦、航空母艦、潜水艦等海軍の艦艇を見る事が出来ます。

吾等幹候隊も今度香川縣の豊後に移転する事になり、此の手紙が着くときは転地中



の事と思ひます。本島も入隊以來三月非常な名残りがありましたかやむを得ません  
此の便箋の左下の寫りも現在の入屯部隊の兵舎の前身であり吾々も此の工場跡の兵舎宿舎  
で日夜軍務に専心してゐる理由です

候補者内でも埼玉出身の者も四人ばかりあり九〇部隊より来た永山と深谷町北埼玉より二んき  
て居ります。四月十日附のハガキは二十二日に入手致しました。間野永山の代も護國の英霊  
として無言の御歸還を祈された由非常に残念至極です。お梅お君も隊が異つた故、こちらからも  
手紙を出して置きます。幹部隊移動で東部九〇部隊からは旧知の班長が来て會ひました。其  
の話を依ると十月の末に九〇部隊に転属になった見習士官の六名の内一名残して全部牛島の  
方に転任になつた模様です。吾々と共に幹部生として軍務に任ぜられた幹部の連中も牛島の方  
に三月ばかり輸送の手助に出張した模様だと話されました。吾等も南方か或は北方に皆  
分配されますがたとへ内地の原隊に転属になるも一回は外地に行く事と思つて居ります。  
軍装の方も昨日(十三日)軍袴と長靴の大きさをばかりしました。演習も九州宮崎の  
土々呂の出張演習が山でこれも吾等の中より約一ヶ月であつたとして戦術其の他の教育  
のみです。この十五日に東久邇宮殿下、十九日には三笠宮殿下が陸大の生徒と共に御来隊に相  
成りました。では近況旁々転地の御一報まで。

元五月、香川縣豊後守ノ前アアルハガキヨロバ四月二十日宇田ノ入屯部隊の便箋に香川縣

三豊郡豊後守船舶兵幹部候補生隊ニ移転シテ要リ報ジテ来々

豊後ハ東北山ニ面シ西ハ浪靜ナリ瀬戸以迄ニ向テ居リ給也。非常ニ良ク保テアル豊後  
ハ完候モ景色モ良ク夜ハ蝙蝠ガ気味臭イ程況山龍廻リテアル。時計ノ龍頭ヲ捲ジ  
切ラタテ代リ時計ヲ居テ世貴ヒタイト申サテワタ。時計ハ今持ッテ居ルハ三豊岡町ノ太安  
堂カラ求メタモテアワタガ太安堂ノ主人モ出征シテ居ルデ横田時計店主ニ話シテ買求メ  
五月十日金子局カラ一節宛書留便ヲ送付シタ

元、共々、豊後縣出オシ信トシテ封書ガ届キタ。吾等船舶幹部候補生。〇名も日夜極  
訓練を重ね居リ現在吾々の先輩であるヤノ一期生。〇〇名並に特幹部。〇〇名も豊後  
で苦心船舶兵の戦術を修得中である。吾々も最後の仕上げ演習として宮崎縣土々呂(近岡附近)  
に出張する事になり五月十六日頃豊後を出発。舟核動して瀬戸内海より九州東海岸を  
通り土々呂に着約十日の猛訓練を積める予定である。土々呂は捲浪一三米程あり相当  
な波浪で船に馴れたい者は相当深刻な浪の教育を受けらる。土々呂より帰るころ  
は七八月と大体戦術現地教育で大した演習は無いと思はれる。或は岡山縣の牛島  
に移るかと思はれるが土々呂の判断はせぬ。卒業も大体八月下旬の予定で時局の要請に依り  
ては七月に帰るかと思はれる。現在船舶兵の九割が南方の演習場に行く事になつてゐる。七月末  
或は八月に私もこの演習場に行く事になるだらう。一昨日は鶏卵が一個宛給され。鯛も

入隊以来初めを味はされた。指揮力もそこ必要はない面會も相互多忙の爲御断  
り致します。唯外出があつても亦必要な教範があつても野金の松尾が出来ない爲、  
三三十四封書に入れて書留で送つて貰ひたい。爲當では困る。此の手紙は舟艇長領  
の爲、宇島に泊る日の出張途上から出したものとす。

一部を愈々エタ呂出張演習一月を終へてからの南方現戦場へ行つたハイカト云フ事  
ヲ云フて来々入隊約茲と二年船舶兵士と幹部ニテ誅兵ヲ督ニテ国家ニ御奉公  
スル日ガ近ブイテ居ル次第デアリ。有テ三日送ッワ時計ハ未着ノ率デアラウ。何トモマツテ  
来ナカワタ

十九、五、三、大分縣蒲江町岡村勤方ニテハガキニテ来信ガアワタ「時計は豊嶽にこの間に合はず  
恐領して居りません五月三日豊嶽出張途上愛媛縣北條にて国民学校長に泊り  
非常な接待を受け、二十六日加賀岡ニ宿泊日本(東京)と云つた大煙突を見、二十七  
日大分縣蒲江に泊り二十八日元気で出発しました大平洋も思つたより波静か、各宿泊地では  
警し程の待遇を受け、此の論此の出発は官時縣エタ呂ニ出張演習を行つ途上ヨリ通  
信デアリ、時計が到着の際に同ハナカワタハ残念デアワタ

一九、六、十 隊名八咫岡市エタ呂陸軍演習會館船舶兵幹部候補生隊演習隊トシテ五月三十一  
日豊嶽、エタ呂、加賀岡、タヌキ、エタ呂、港長、エタ呂、米突、高浪港、崇徳、護国、以外、浪靜の

大分縣蒲江町中島武平ニテ本邦エタ呂の來信ガアワタ

一九、六、三 附ハガキニテ豊嶽ノ幹部候補生隊本部ニ時計、件照會セルモ「愛媛縣出張局  
ニ照會ガ良策ト思ヒト」返信ガ来々故一億金子郵便局ニ取調カ依頼シタ、五月十五日、  
ノ送付デアルカラニニ、五日頃ハ八咫岡ニ着イタタガ、其時既にエタ呂ニ出張シタ後デ  
アタト思ヒル爲種々手違ヒガ出来タ思ヒル直ヤニ金子局ニ就イテ発送上ノ件照  
會ノ所豊嶽局ニ対シ集配人ノ送達証明書ヲ得タ之カ証明積ラズニシテデアワタ  
エタ呂演習ニ付テハ詳細報告ガ無カタ、彼浪ト戦ヒ、敵前上陸ト云々極訓練カ行  
ハシタ事ト想像セル

一九、六、九 愛媛縣越智郡菊岡町吉井邦義氏方ヨリ封書ニエタ呂出張演習終了  
ノ通知ヲ送ッテ来々「エタ呂出張演習も六月二十五日終了して二十六日エタ呂出張大分縣白  
杵ニ泊るに歡待を度けた。六月二十七日には山口縣宝積三泊(女子師範、宿舎)エタ  
呂には下核に特殊艇ヲ見テ、二十九日愛媛縣菊岡に停泊しました三十日には豊嶽に  
着テ予定モテエタ呂島の方には中止になつたらしい。

エタ呂には捲浪と戦つて上陸演習を行ひ或は七之里の駐足行軍を行ひ大に身心を鍛  
練した。エタ呂の給食は菓子パン、羊羹等隔日にありましたが然し一回が十元位死んで  
した。二十日は神武天皇御船出の聖地美津を見学しました。帰途はエタ呂一泊行

宝積圃ハ昼間航行にて宝積、南回、豊洲等は夜間機動で四羅針盤、海図時計  
を以てみ合せて航行しました航行の内豊原水道、釣島、赤島、赤島海峡がサシ難所にて他  
は昼寢しながら通る来ました。中国、四圍、九州一部であるが其の地の人情風習が  
よくつかはれます。四九州が一番よかつた様で白村では町長始め二百名も出迎へてこれ案に  
恐縮した御馳走にも預つたのでした。以上、エミヨ出張も無事ニ終つた様で三十日

ニ豊原ニ歸つたモノライ、時計、作ハ未解決、僅テアツタ  
一九七、五、附ハガキハ六月三十日無事豊原ニ歸部候補生隊智隊ニ歸隊、夕旨通信、時計  
ノ方ハ隊本部係官加田軍曹ニ交渉シテ所加田ハ未ダ受領シ居ラズ、發送局ニ其ノ番号  
等調査シテ報告セラルトト、テアツタ、右ニ付、一、既ニ金子局カラ豊原局ニ取調べ  
集現人が受領シ得テ居ルデ其ノ旨回答シタ

一九七、九、附ハガキハ七月十日豊原を出発し、濱習の状況と大阪より伊勢、又宮、外宮を参拝し  
皇國の隆昌を祈念し其の帰途は明司、宇尾の方にも立寄り豊原に帰着した。時計  
ノ方ハ再ニ加田軍曹ニ連絡した所不明であるが、どうも紛失したらしい模様であるが更に  
調査して貰ふ考である。面會は其の以許可になりさうであるから其日取や携行願  
不届名は其の内知らせますが大体七月二十六日から八月十日迄の間でせよ

時計紛失問題は加田軍曹ノ手落ちトイ受取人が其室集地ナルテアツタが貴重品ヨ相

ニ此ノ書留小包が其ノ箱ニテ居るは紛失したモノト其ノ旨時計代金を返す様ニ  
イト云フ意味、手紙が未ダ故是非代金を交付する様、加田軍曹ヨ通シテ申請在様、回答  
シテ七月三十日附ハガキハ此間ノ消息ヲ傳ヘテ未ダ代品交付ヨウテケル様云フモノ  
一九七、二、六、豊原船舶兵幹部候補生隊密隊長陸軍大尉瀧澤秀夫氏ヨリ在部面會ニ要  
項ヨリ許容スルノ通知ヲ受ケ、此書信ハ一部通信ト全封、セニヨリテ送ラレタ  
面會ノ要項

一面會期ハ七月二十六日ヨリ八月十日頃迄

六面會時間ハ教育ニ際シテ休憩時間ニ於テ特別場合ヲ除キ普通ニ時間

ニ面會希望者ハ候補生ニ名ニ付全行者ニ名以テ制限

四携行品ハ候補生ノ軍用品教育ニ直接関係ナキ物件(飲食物雜誌、類)携行致サレ尤

カ如ク願ヒ度當日衛門ヲ携行品ヨリ一應御提示相成度

ニ宿舎ハ部員田舎ヲ旅舎トシテ宿泊ニ難点ナル付可成可能ノ方宿泊セザル事

ニテアツタ一部ヨリ携行希望物件ハ軍刀、口丸、細網(命綱)甚テ不潔、呼子貨ヲ積ミ

本襪、風呂敷、ナイフ、石鹼、軍手、ハンカチ、印鑑、財布、眼鏡、辞書、ト云フモノ

許リモノテアツタ、尚面會期ヨリテハ七月末、日曜日から八月始、日曜ヨリトテアツタ

一部、面會ニテテ人王子ノ斎藤氏ノ子ヲ希望シテ居タゲ全行ヲ修了スルモノハ自習